

**平成29年度教育事業 環境教育学習プログラム開発事業
「子ども環境探検隊・栗駒山麓ジオパーク編」**

- 1 趣 旨 国立花山青少年自然の家周辺のフィールドにある豊かな環境資源を使った体験活動を通じて、自然の仕組みや希少価値等について理解を深めるとともにその保護や活用について考え、地域に根ざした環境教育の推進を図る。
- 2 主 催 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立花山青少年自然の家
- 3 後 援 宮城県教育委員会・栗原市教育委員会
- 4 協 力 宮城県・栗原市・栗駒山麓ジオパーク推進協議会
- 5 概 要 (1) 期 日 平成29年10月7日(土)～9日(月・祝)〔2泊3日〕
(2) 参加者 ①参加対象・募集人員 宮城、岩手県内の小学校4年生から6年生・25名程度
②参加総数(参加状況) 41名(応募者数42名 ※キャンセル1名)
- 6 場 所 国立花山青少年自然の家 及び 栗駒山麓ジオパーク(ジオサイト)
- 7 講 師 (1) 栗原市役所 産業経済部 ジオパーク推進室室長補佐 菅原 俊 氏
(2) 栗原市役所 産業経済部 ジオパーク推進室係長 佐藤 英和 氏
(3) 栗原市役所 栗駒山麓ジオパーク専門員 原田 拓也 氏
(4) 栗原市役所 栗駒山麓ジオパーク専門員 門間 哲司 氏
(5) 栗原市役所 栗駒山麓ジオパーク専門員 長尾 隼 氏
(6) 栗原市役所 栗駒山麓ジオパーク専門員 中川 理絵 氏
(7) 栗原市役所 栗駒山麓ジオパーク専門員 小林 美月 氏
(8) 栗駒山麓ジオガイド栗駒山山岳指導隊 狩野 浩 氏
(9) 栗駒山麓ジオガイド栗駒山山岳指導隊 菅原 幹男 氏
(10) 花山座主 工藤 修二 氏

8 企画・運営のポイント

平成27年に認定になった「栗駒山麓ジオパーク」を巡る探検として事業を企画した。栗駒山麓の地形や地質がどのような災害に結びつくのかを、実験装置を使って地滑りや火山爆発のメカニズムを学んだ。地表や岩石、植物の植生について観察し、かつてこの地域は火山噴火があったことや、植物の保全に関する取組がなされていることを学んだ。また、「荒砥沢崩落地」の見学を行い、ジオパーク認定のきっかけになった「地質百選」の概要を学んだ。

9 日 程

	活 動 内 容
10/7(土)	【導 入】栗原防災学習センターにて、地震の揺れや消火など防災についての学習をする。栗駒山麓ジオパーク推進室の方から山麓フィールドの話聞く。
10/8(日)	【展 開】荒砥沢崩落地の見学や、栗駒山でトレッキングを行い、自然の雄大さを感じとり、環境の大切さや保全などについて学ぶ。
10/9(月・祝)	【まとめ】花山の自然環境を生かして活動している陶芸の先生を招いて、クラフト活動をする。また3日間の活動で学んだことを、新聞にまとめる活動をする。

10 活動の内容について

【10月7日(土)1日目】「栗原防災学習センターでの防災学習・栗駒山麓ジオパークの解説及び実験」



【10月8日（日）2日目】「栗駒山トレッキング・荒砥沢崩落地での地滑りの観察・岩石標本マップ作り」



【10月9日（月・祝）3日目】「花山座主窯陶芸教室・3日間の探検のまとめ新聞作成」



11. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足：80.5% やや満足：17.1% やや不満：0% 不満：0% 無回答：2.4%

参加者41名に対して行ったアンケートの集計結果は、「満足」の割合が多かった。この事業は総合的にみて好評であったといえる。講義・実験・観察・フィールドワークなどがバランスよく配置されていたため、参加者は最後まで集中力をもって、活動に取り組むことができた。来年度のプログラム企画・編成等の参考にしたい。

(2) 参加者の声

- ・様々な実験や観察を通して、栗駒山麓の地下が非常に不安定であることを初めて知った。地震によって大規模な地滑りがおこることがわかった。自然は美しいところもあるが、こわいところもあることを学べた。
- ・内陸地震のあとに生まれたので、内陸地震はよくわからなかったけど、詳しく知ることができてよかった。
- ・去年は天気が悪く途中で引き返したが、今年は東栗駒コースから山頂まで登ることができてうれしかった。初めて登ったので、大変なところもあったけどすごくいい経験になった。紅葉が美しく感動した。など

(3) 成果

- ・「栗駒山麓ジオパーク」の解説や、「自然災害のメカニズム」について、講義や実験を通して学ぶことができた。また栗駒山トレッキング、荒砥沢崩落地の見学など「栗駒山麓のフィールドワーク」を通して自然の恵みにふれることで、普段の生活では体験できない環境学習プログラムを、参加者に提供することができた。
- ・企画3年目にしようやく晴天に恵まれ、東栗駒山～栗駒山の縦走を実施でき、参加者の感動も大きかった。
- ・ジオパークの岩石の資料がとても良かった。研修支援の学校にも1校でも普及出来るとベストである。
- ・小学校4年生から6年生までの25名を募集したところ42名の応募があり、当日までにキャンセルがあった1名を除く、41名で事業を実施した。特に4年生の応募が多かったのが特徴で、宮城県内の各地域から満遍なく参加を募る事ができた。日本ジオパークに認定された「栗駒山麓ジオパーク」への関心の高さが窺える。

(4) 課題

- ・今回は子どもたちにとってわかりやすい「栗駒山登山」と「岩石標本作り」という大きなテーマを軸に活動を展開した。来年度は環境への意識を促したり、変容させたりする部分を深めていくことができればと考える。
- ・「栗原市役所経済産業部 ジオパーク推進室」には、今年度も事業への協力を快く引き受けていただいた。来年度は、さらに新しい切り口を開発できるよう、開催時期、内容についても再検討していきたい。
- ・岩手県からの参加者を獲得することができた。「岩手・宮城内陸地震」を風化させないためにも、今後岩手県から、さらなる参加者の獲得のための工夫が求められる。
- ・今回は、栗原市教育委員会及びジオパーク推進協議会のお力添えによりマイクロバスの協力を得ることができた。栗原市教育委員会では、ジオパーク推進協議会の事業として位置付けているため、次年度は開催要項に「共催」として連携させていただきたいと考える。

担当：企画指導専門職 佐々木正輝